
Beautiful Thing

蒼蓮瑠菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B e a u t i f u l T h i n g

【Nコード】

N 5 6 3 7 I

【作者名】

蒼蓮瑠菜

【あらすじ】

“ボク”と彼女のいつもの散歩。

いつもと同じはずの風景が彼女の言葉で特別な物に変わる。

そんな“ボク”と彼女の何気ないやり取りです。

“ボク”と彼女がどんな人物か考えながら読んでもらえると、より楽しめるかも。

空を見上げると、流れる雲が目に入った。

「綺麗だね」

ボクの側で同じように空を見上げる彼女は言う。

何が綺麗なのか、ボクには分からない。そう伝えたと、彼女は優しく微笑んだ。

「全てが綺麗なんだよ。あの空も、雲も、森も、花も、木も、鳥も、水も、川も。自然にあるものは全て美しいと思う。……それが何故だかわかる？」

彼女はボクに目を向けて問う。ボクには見当もつかない。そう伝えると、彼女はまた空に目をやって教えてくれた。

「それはね、全て光のおかげなんだよ」

ボクはよく分からながら、太陽を見上げる。

「そう。お日様の光だ。光があるからこそ、全てを感じる事ができるし、それは変化することができる。だから、私たちは、変化を感じて美しいと思えるんだよ」

それなら夜は駄目ではないかと訴えると、彼女は面白そうに笑って答えた。

「そんなことはないよ。夜には月や他の星たちが照らしてくれる。それはそれでとても綺麗だ。……おっと、君にも見えるのかな？」

ボクは普通の鳥よりは夜目が利く。そう伝えたと彼女は本当に嬉しそうに笑った。

「そうか、それはよかった」

その笑顔がとても綺麗で、ボクはみとれてしまった。

やがて、彼女が、ボクの方に腕を差し出す。

「そろそろ帰ろう。皆が心配する」

その腕が、あまりにも細く白く綺麗なので、ボクは少し躊躇したが、彼女が催促するように腕を振ったので、仕方無く、今までとま

ついていた木の枝から彼女の腕に舞い降りる。鋭い爪でその綺麗な肌を傷つけないように、慎重に止まる。翼をたたんでなんとか彼女の細い腕に収まると、彼女は満足そうに笑った。

「さあ、帰ろう」

歩き出した彼女の腕から、ボクは、また空に目をやる。その色は夕暮れに赤くなりかけていた。

その空の、赤と青と白が織り成す不思議な色合いを、ボクは綺麗だと思った。

(後書き)

初投稿でした。

お読みいただきありがとうございました。

またの機会がありましたら、お願いいたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5637i/>

Beautiful Thing

2010年10月15日05時20分発行